



あとがき



シグマ委員会が今年で60周年を迎えました。あれっ!? 私は、10年前に50周年の記事を書いたことを思い出しました。その際、「受け継がれる未来は、それを担う者の自由であり、それはまだ空白である。」と、なんとまあ自己陶酔の匂いたる文章を書いたものよ。では、その後、最初は空白であった10年間には、どのような研究、活動が描かれていったのだろうか? 2023年3月、東大駒場キャンパスにおける春の年会では、企画セッションとして、シグマ委員会60周年の講演が予定されていますので、そこで10年間の差分を取って見ましょう。当然、委員会の活動や研究の進捗には、あまたの研究者が関わってきている。そうすると、委員会の活動の歴史は、研究者自身の人生の記録である、とも言えよう。70周年、80周年…と続いていけば、また新たな研究者達の人生が刻まれていくことになる。刻め、己が人生を。さすれば、後続の者は、それを頼りに迷うことなく、進むことができる。さすれば、研究者が変わっていても、委員会の活動はまわり続けていくだろう。

また、別途、祝賀会が、令和5年3月15日(水) 18:00-19:00、東京工業大学EEI棟1階多目的ホールにて実施される予定です。どうぞ足をお運びになってはいかがでしょうか。

中村 詔司 2023年2月

日本原子力学会核データ部会
核データニュース編集小委員会

合川 正幸 (北大)	岩本 修 (原子力機構)
大塚 直彦 (委員長、IAEA)	金 政浩 (九大)
小浦 寛之 (原子力機構)	中村 詔司 (原子力機構)
丸山 修平 (原子力機構)	山野 直樹 (RADONet)